

軸

～街と温もりが繋ぐ複合施設～

「温もりが宿る場所を軸に」

現代の日本では、人と人との直接的なつながりが希薄になりつつある。そんな時代だからこそ、**記憶**や**感情**に寄り添う場所の存在が必要だ。幼い頃、私は公園や空き地、田んぼで地域の人々とふれあいながら遊んでいた。そこには世代を超えた交流があり、地域の温もりは日常に息づいていた。私は「**温もりが宿る場所**」を**街の軸**にすることで、人と人との交流を促し、世代を超えた繋がりを再構築することを目指す。軸となる複合施設は文化や教育、人の循環を生み出し、地域の記憶を未来へ継承する役割を担う。**道路という単なる通過点ではなく**、人々が立ち寄り、滞在し、語り合う場として街に新たな価値をもたらし、**時代とともに変わり続ける場所**となることを期待する。

1. 分析 〈福山市に必要な機能〉

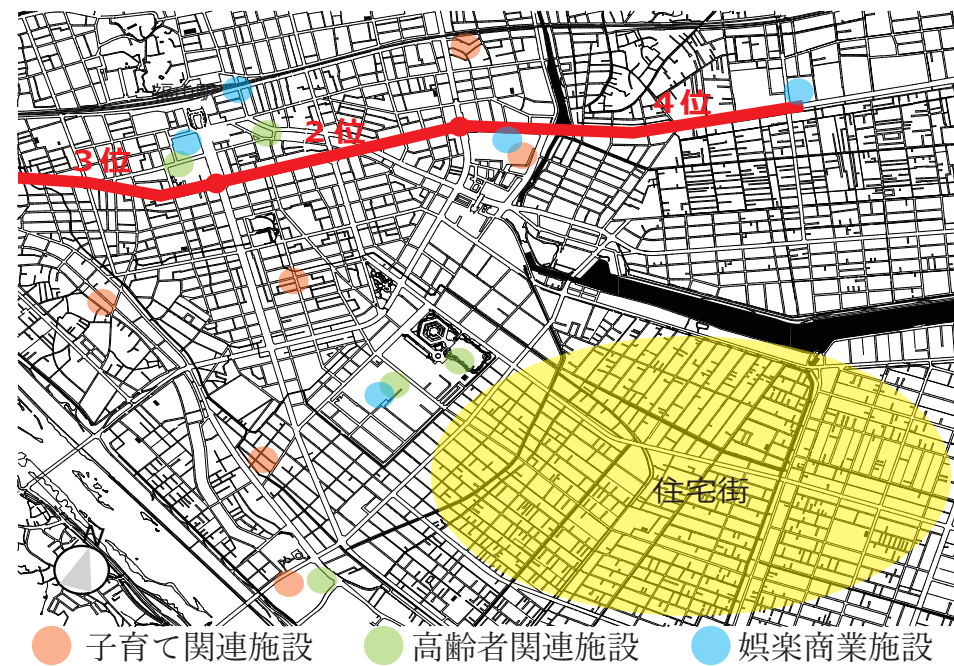
福山市は20～30代は子育てや教育、全世代は高齢化や将来の健康・介護に不安を抱いている。このことから子育て支援と高齢者支援を両立させる仕組みづくりが求められている。

高齢化

子育て

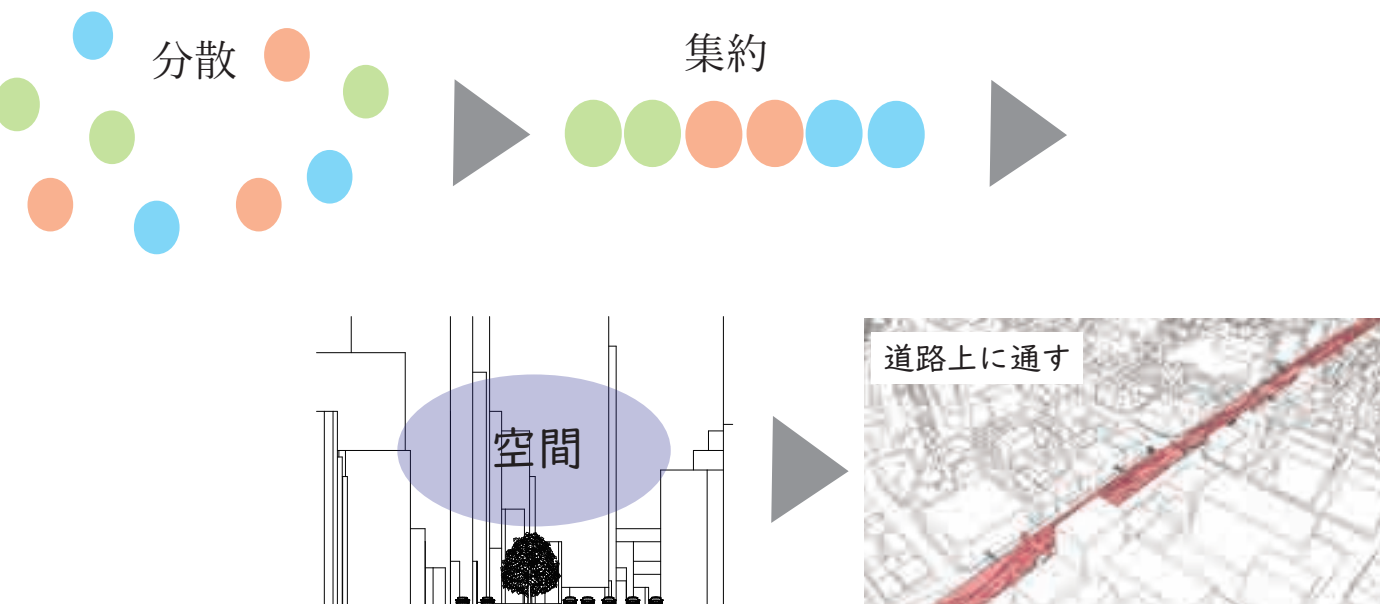
2. 分析 〈街の特徴 分散した施設〉

福山市は車社会であり、車を持たない中高生や高齢者にとっては移動手段が限られ、暮らしにくさを感じる特徴がある。また、敷地周辺は複合施設が少なく、生活機能が分散し、立地条件の悪い店舗は経営不振となる可能性が高い街と言える。



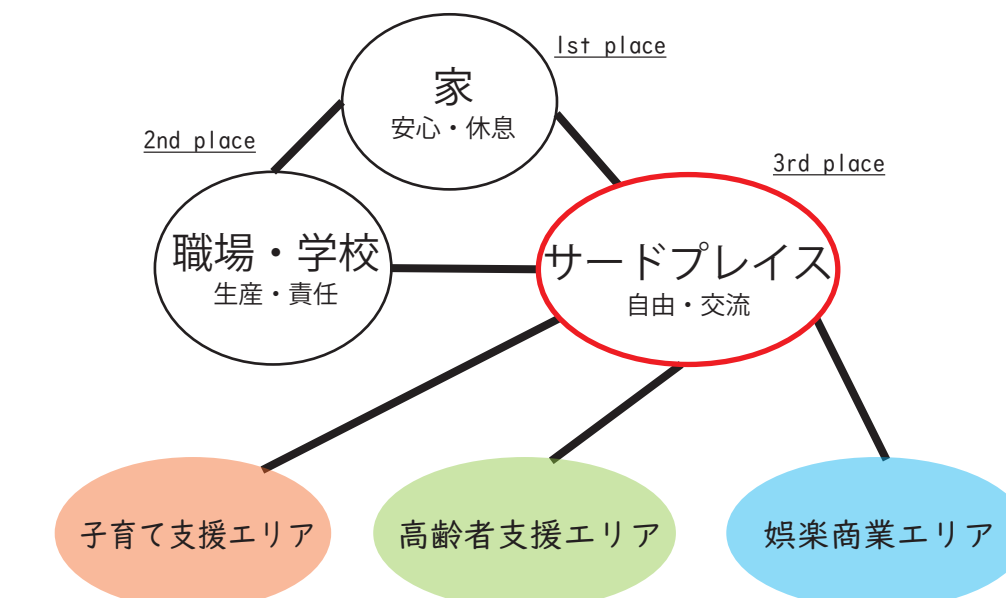
3. ダイアグラム 〈道路上に軸を通す〉

福山市には複合施設がなく、街が繋がっていない。そこで街に一本の「軸」を通して、街を繋ぐ複合施設を作る。福山市に分散した施設を集約し、道路上という空間に軸を通す。



4. 提案 〈サードプレイス〉

本計画では福山市にない子どもから高齢者まで使えるサードプレイスを計画する。また、子育てや高齢者を支援する「子育て支援エリア」、「高齢者支援エリア」に若者の暮らしやすさを支える「娯楽商業エリア」を加えた複合施設を提案する。



5. 空間構成 〈変わらない骨格と変わりうる中身〉

時代が変化しても変わらない「骨格」と、時代の変化に応じた社会や地域のニーズに対して柔軟に更新できる「中身」という二層の構造を持っている。「骨格」は昔から大切にされてきた地域の基盤となり、市民に温もりを与える。一方で「中身」は、時代とともに変化するニーズによって変わっていくものであり、現時点において子育て支援、高齢者支援、若者の娯楽を設けることとする。

1) 空洞や吹き抜け

時代が変わっても変わらない「骨格」であり、内装を極力なくすることで、ニーズの変化にも対応できる「中身」ができていく。

3) 時間帯による使い方の切り替え

同じ空間に時間により異なる役割をもたせる。日常の中に新たな価値と風景が生まれ、空間は単一の機能に縛られることなく、生活のリズムに寄り添う場となる。(例)昼間はカフェで夜はバーなど

2) 三層構造

「骨格」の1つであり、約3キロ道路上の全てが三層構造になっている。また、各層に異なる機能が展開されることで、新たな体験をもたらす。

4) 柱脚部周辺の広場

柱脚部の形によって生まれた空間に広場を作る。中央分離帯や福山駅前広場の柱脚部にある空間を利用して、広場を作り施設外から施設内に繋ぐ動線を作る。施設内に収まらず、街全体に影響範囲を広げる。



7. ゾーニング 〈地域の特徴〉

各エリアの内装を全てAエリアを参考に作られている。流れるような空間の中に三つの広場を設け、公園のような遊び空間が広がる。デッキを設け、イベントスペースとしても利用可能であり、空間を仕切らない繋がりがある。その周りに様々な機能をつけることで、繋がりが増えていく

Msp メインスペース
・室内遊具・預かり保育施設
・ジム・スタジオ
・商業施設・コワーキングスペース
最も広いところで60m×13mあり、各エリアのメイン空間であり、ニーズの変化にも対応可能。

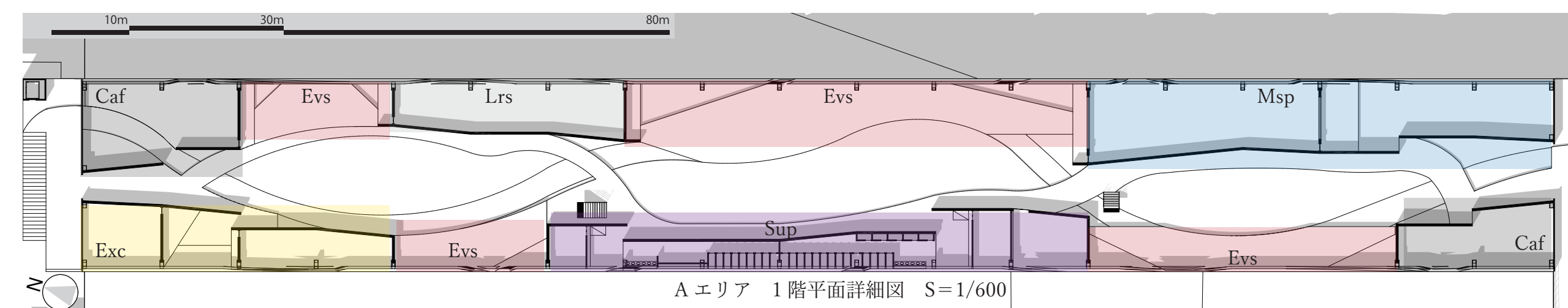
Exc 交流スペース
・育児交流相談室・商業施設
・カフェラウンジ
交流がメインのスペースであり、他スペースと比べ、部屋が分かれているので、相談や考え事に向いた空間になっている。

Caf 共有部スペース
・図書館・補助室・診療所
・カフェラウンジ
全てのエリアに共通して必要な機能が揃ったスペースで、周辺の機能に合わせて必要な機能を配置し、エリアごとを繋ぐ役割がある。

Evs イベントスペース
福山市は大型イベントに加え、展示会やワークショップなど小規模イベントも多いですがあまり知られていない。そんなイベントを集め、開催場所を固定し、常に新たな刺激を生む空間にする。

Lsr 貸出室
・貸出室・イベントスペース・商業施設
最も広いところで30m×10mあり、バスケットコート程の広さがある。福山市は社会人チームや地域団体が多いので集まれるスペースにしたい。また、室内イベントスペースとして利用可能。

Sup サポートスペース
・トイレ・多目的トイレ
・管理室・倉庫
エリア内に必要な設備が揃ったスペース。管理室を作り、防犯や増地面、イベント時のフォロワー全体のサポートを行うなど、現実的に必要なスペース。



8. 敷地選定とエリア分け 〈用途と接続施設〉

本計画区域は、広島県福山市に位置する福山駅から五本松公園までの約3キロの赤色エリアを対象とする。なお、本計画は福山市で現在検討中の政策が実施されたものとして進める。また、福山駅から五本松公園までの約3kmの道のりを200mごとに区切り、合計12のエリアを設ける。各エリアは周辺環境に応じて「子育て支援」「高齢者支援」「娯楽商業空間」の3つのエリアに分けていく。福山市の分析と街の特徴から福山市に分散している施設を集め、各エリアに必要な機能を追加し共有部を作り、各エリアを繋ぐ空間を作る。

1) 課題と規模感

福山市全体の問題を上げるに当たり、敷地を選定するのではなく、道路に作ることで福山市の問題を地域を絞らずに考えることができる。

2) 福山市の政策

現在、福山市の政策として福山駅前に広場を作る案と五本松公園に次世代の拠点を作る案が上がっている。福山駅と次世代拠点を繋ぎ、新たな都市全体の活動拠点を作る。

3) アクセス性の高さ

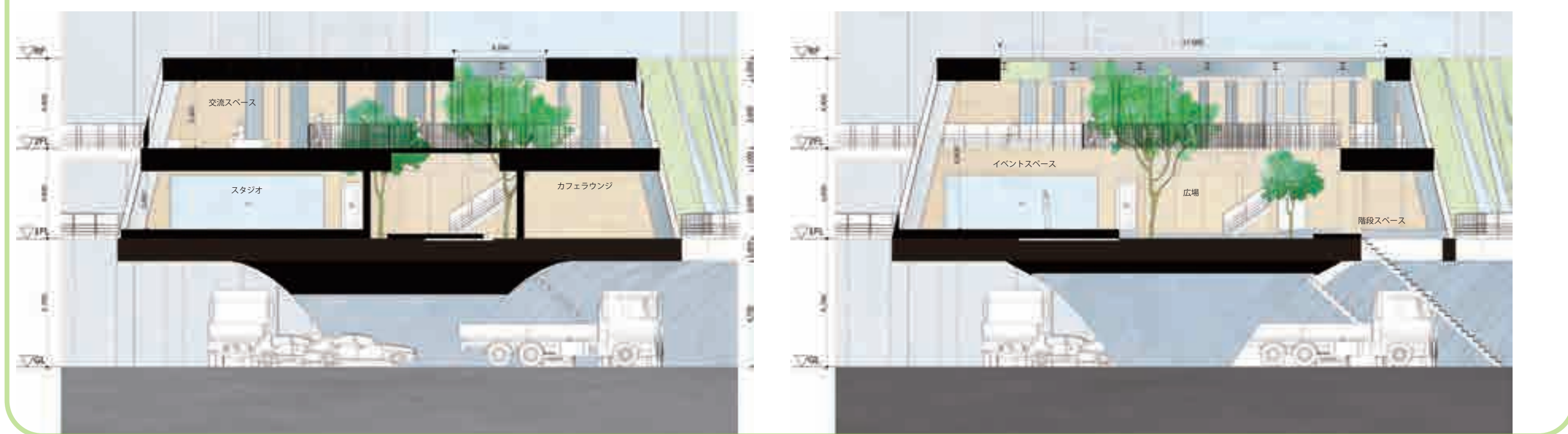
福山駅周辺あるコインパーキングや接続施設を利用することで専用駐車場がなくとも高いアクセス性を確保できると考える。

4) 人口密度

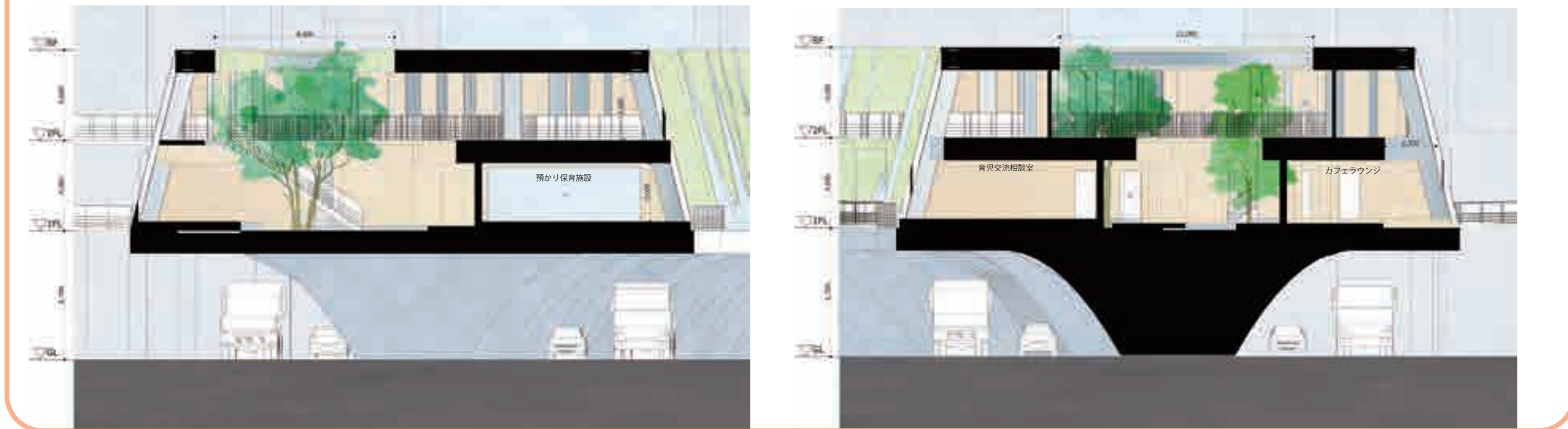
福山駅前は市内で最も人口密度が高く、市外からのアクセスも良い。また、福山市で最も多くの人が利用する駅である。



高齢者支援エリア S=1/200



子育て支援エリア S=1/200



娯楽商業エリア S=1/200

